

2017年度

(2017年4月~2018年3月)

環境活動レポート

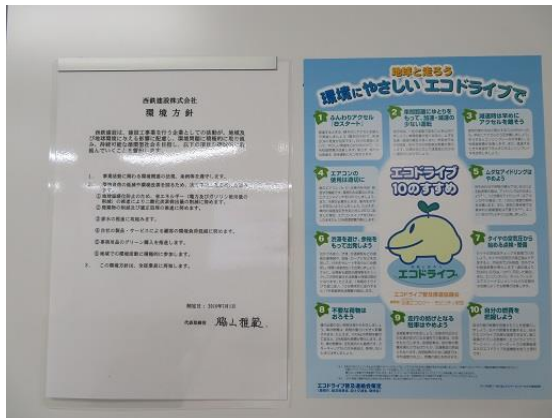


**Nishitetsu
Construction**

2018年6月8日



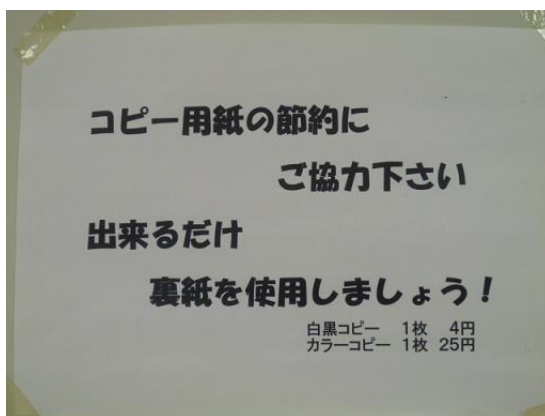
【環境方針・エコドライブ 10 のすすめ】



【エアコン設定温度 夏 28℃・冬 20℃】



【コピー用紙 裏紙の利用】



【紙回収ボックスの設置およびゴミの分別】



目 次

1. 組織の概要
2. 環境方針
3. 環境目標
4. 環境目標の実績
5. 環境活動計画及びその取組結果と評価並びに次年度の取組内容
6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、
訴訟等の有無
7. 代表者による全体評価と見直しの結果

1. 組織の概要

1. 事業所名
代表者氏名

西鉄建設 株式会社
代表取締役 脇山 雅範

2. 所在地

本社 〒810-0074 福岡市中央区大手門二丁目 1 番 10 号

3. 環境管理責任者
担当者氏名
連絡先

総務部長 中原 重典
中道 淳子
TEL 092-712-6711
FAX 092-712-5057
Eメールアドレス s.naka@kensetsu-nnr.co.jp

4. 事業活動の内容

建設業
主要商品: マンション、戸建住宅、一般建築(事務所、店舗等)

福岡県知事 許可 (特-29) 第 22208 号
建築工事業、管工事業、大工工事業、左官工事業
とび・土工工事業、石工事業、屋根工事業
タイル・れんが・ブロック工事業、鋼構造物工事業、鉄筋工事業
板金工事業、ガラス工事業、塗装工事業、防水工事業
内装仕上工事業、熱絶縁工事業、建具工事業、解体工事業

(事業年度: 4月～翌年3月)

5. 事業の規模

	単位	2015年度	2016年度	2017年度
売上高	百万円	6,451	4,813	7,200
従業員数	人	67	67	69
床面積	m ²	660	660	660

6. 認証登録範囲

対象活動
建築物の設計・施工及び広告物の設計・施工
対象組織
全社員・全従業員

2. 環境方針

西鉄建設は、建設工事業を行う企業としての活動が、地域及び地球環境に与える影響に配慮し、環境問題に積極的に取り組み、持続可能な循環型社会を目指し、以下の項目を継続的に取り組んでいくことを誓約します。

1. 事業活動に関わる環境関連の法規、条例等を遵守します。

2. 環境負荷の低減や環境改善を図るため、次の事項に重点的に取り組みます。

- ① 地球温暖化防止のため、省エネルギー(電力及びガソリン使用量の削減)の推進により二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- ② 廃棄物の削減及び適正処理の推進に努めます。
- ③ 節水の推進に努めます。
- ④ 化学物質を把握し、適正管理に努めます。
- ⑤ 環境に配慮した商品の提供に努めます。
- ⑥ 資機材のグリーン調達を推進します。
- ⑦ 地域での環境活動に積極的に参加します。

3. この環境方針は、全従業員に周知します。

制定日:2010年10月1日

改定日:2017年7月1日

代表取締役 脇山 雅範

3. 環境目標

環境目標		単位	事業所	2016年度実績(基準年)	2017年度目標	2018年度目標	2019年度目標
1	二酸化炭素排出量の1%削減 (売上金額億円比)	Kg-CO ₂	全社	2,191.98	2,170.06	2,148.35	2,126.87
	二酸化炭素排出量の1%削減 (売上金額億円比)	Kg-CO ₂	本社	1,593.20	1,577.26	1,561.49	1,545.88
	二酸化炭素排出量の1%削減 (売上金額億円比)	Kg-CO ₂	建設現場	598.77	592.78	586.85	580.98
(1)	電気使用量の1%削減 (売上金額億円比)	kWh	本社	1,136	1,125	1,114	1,102
	電気使用量の1%削減 (売上金額億円比)	kWh	建設現場	1,137	1,125	1,114	1,103
2	ガソリン使用量の1%削減 (売上金額億円比)	L	本社	429.58	425.28	421.03	416.82
3	廃棄物最終処分量の削減 (売上金額億円比)	t	建設現場	20.27	20.06	19.85	19.65
4	水使用量の削減 (売上金額億円比)	m ³	本社	8.47	8.39	8.30	8.22
5	化学物質の適正管理		建設現場	SDSにて管理	SDSにて管理	SDSにて管理	SDSにて管理
6	グリーン購入の推進	品目数	建設現場	10品目	10品目	10品目	10品目

使用電力の二酸化炭素の排出量は、九州電力の2015年度調整後排出係数 0.528kg-CO₂/kwh を用いて算出し直しました。

4. 環境目標の実績

エコアクション21を運用した2017年4月～2018年3月における目標に対する実績は次のとおりであった。

※使用電力の二酸化炭素排出量は、九州電力の2015年度調整後排出係数 0.528kg-CO₂/kWh を用いて算出した。

なお、2017年度の二酸化炭素総排出量は 121,760kg-CO₂ であった。

目標	単位	2016年度実績 (基準年)	2017年度 目標	2017年度 実績	目標達成率 判定
二酸化炭素排出量削減 (全社)	Kg-CO ₂ /億円	2,191.98	2,170.06	1,691	○
二酸化炭素排出量削減 (本社)	Kg-CO ₂ /億円	1,593.20	1,577.26	949	○
二酸化炭素排出量削減 (建設現場)	Kg-CO ₂ 億円	598.77	592.78	742	×
電気使用量の削減 (本社)	kWh /億円	1,136.66	1,125.29	590	○
電気使用量の削減 (建設現場)	kWh /億円	1,137.12	1,125.75	1,405	×
ガソリン使用量の削減 (本社)	L /億円	429.58	425.28	275	○
廃棄物最終処分量の削減 (建設現場)	t /億円	20.27	20.06	13.42	○
水使用量の削減 (本社)	m ³ /億円	8.47	8.39	5.25	○
化学物質の適正管理		—	SDS にて管理	SDS にて管理	○
グリーン資機材の購入の推進	品目数	10 品目	10 品目	10 品目	○

5. 環境活動計画及びその取組結果とその評価、次年度の取組内容

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組対象	取組計画	達成状況	評価	次年度の取組内容
電力使用量の1%削減	エアコンの設定温度	○	○	継続的に実施する
	クールビズ・ウォームビズの実施	○	○	
	昼食時・不使用時消灯	○	○	
	離席時・帰宅時パソコン電源 off	○	○	
ガソリン使用量の1%削減	エコドライブの励行	○	○	継続的に実施する
	定期点検の実施	○	○	
	公共交通利用	○	○	

2. 廃棄物排出量の削減

取組対象	取組計画	達成状況	評価	次年度の取組内容
廃棄物最終処分量の1%削減	建設汚泥含水量の低減	○	○	継続的に実施する

3. 水使用量の削減

取組対象	取組計画	達成状況	評価	次年度の取組内容
節水の啓発	節水活動の推進	○	○	継続的に実施する

4. 化学物質の適正管理

取組対象	取組計画	達成状況	評価	次年度の取組内容
SDS 管理	SDS の取寄せ、備え置き	○	○	継続的に実施する

5. 環境に配慮した製品調達の提供

取組対象	取組計画	達成状況	評価	次年度の取組内容
環境負荷低減策提案	環境負荷低減策提案の推進	○	○	継続的に実施する

6. グリーン購入の推進

取組対象	取組計画	達成状況	評価	次年度の取組内容
資機材の購入	再生資材の利用、購入 排ガス対策型、低騒音型機械の使用	○	○	継続的に実施する

7. 地域貢献活動の推進

取組対象	取組計画	達成状況	評価	次年度の取組内容
地域での環境保全に貢献する	職場周辺の地域清掃活動	○	○	継続的に実施する

6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規	要 求 事 項	遵守状況
廃棄物処理法	保管基準の遵守	適
	管理票(マニフェスト)の交付・保管	適
	産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出	適
	産業収集運搬・処理業者の許可の確認、契約	適
	多量排出事業者の義務	適
	投棄・焼却禁止	適
建設リサイクル法	建設業等を営む者の責務	適
	分別解体等実施義務	適
	対象建設工事の届出に係る事項の説明等	適
	再資源化等実施義務	適
	発注者への報告等	適
	下請人に対する元請業者の指導	適
資源有効利用促進法	再資源利用計画の作成、記録及び保存	適
大気汚染防止法	特定粉じん排出等作業実施の届出	適
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律	基準適合車の使用	適
	適正燃料の使用(軽油)、点検・整備の励行	適
石綿障害予防規則	作業計画作成	適
	工事受注者への情報提供義務	適
建築基準法	石綿含有その他の物質の飛散または発生に対する衛生上の措置	該当なし
	石綿含有及びクロロピリホス添加建材の使用禁止	適
	ホルムアルデヒドに関する規制	
騒音規制法	規制基準の遵守	適
	特定建設作業の事前届出	適
振動規制法	規制基準の遵守	適
	特定建設作業の事前届出	適

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を核に確認した結果、違反はありませんでした。また、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

7. 代表者による全体評価と見直しの結果

エコアクション 21 への取り組みを通して、社員一人一人の環境に対する意識は高まり、定着している。

今年度より、環境方針に化学物質の適正管理を加えたが、建設現場でも化学物質安全性データシートを活用し、さらに環境への配慮に取り組んでもらいたい。

ガソリン使用量については、引続き、エコドライブの実践、給油および走行データの記録、リース車を順次ハイブリッド車に切り替えるなどにより目標達成に取り組んでいきたい。

電気使用量については、本社については、昼休み、通路部分の消灯、エアコン設定温度の徹底、スーパークールビズの取り組み等が確実に実行されており、目標達成できているが、現場は、現場数によって変動もあり、今回 後半は目標達成できていなかった。本社同様 各自意識して、引続き目標達成に向けて取り組んでいきたい。

西鉄建設株式会社

代表取締役 脇山 雅範